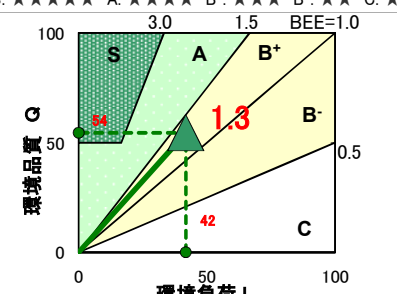
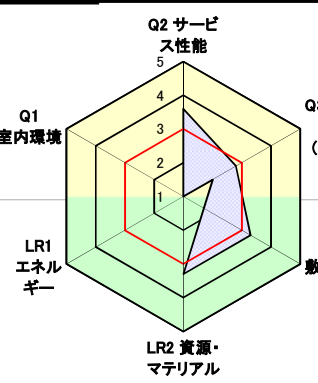


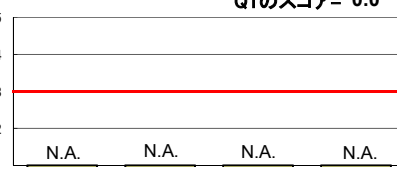
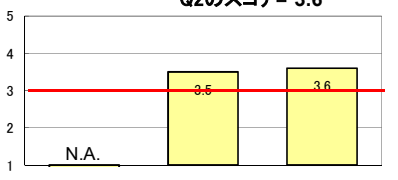
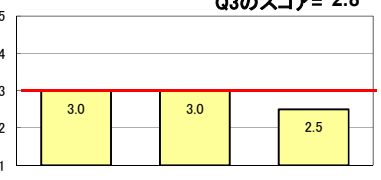
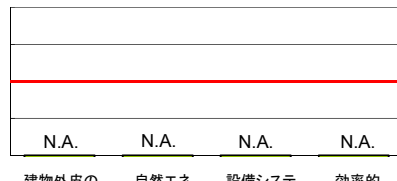
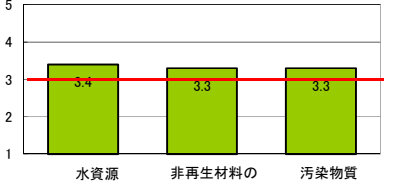
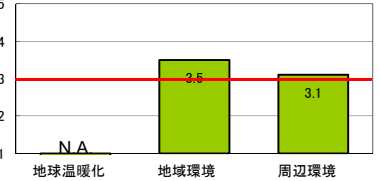
CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	協業組合浜松輸送センター D倉庫増築	階数		
建設地	静岡県浜松市西区湖東町3013-1、3	地上1F		
用途地域	市街化調整区域	構造		
地域区分	6地域	平均居住人員		
建物用途	工場	年間使用時間		
竣工年	2025年1月 予定	評価の段階		
敷地面積	15,179 m ²	評価の実施日		
建築面積	2,069 m ²	作成者		
延床面積	2,069 m ²	確認日		
		確認者		

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.3 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★  環境効率 BEE = 環境負荷 L / 環境品質 Q	標準計算 ① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+ 30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆ 100%超: ☆ 0 46 (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	 Q2 サービス性能 5 Q1 室内環境 4 Q3 室外環境 (敷地内) 3 LR1 エネルギー 2 LR2 資源・マテリアル 1 LR3 敷地外環境 4

2-4 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質			
Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0  音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.6  機能性 耐用性 対応性	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.8  生物環境 まちなみ 地域性・	Q のスコア= 3.1
LR 環境負荷低減性			
LR1 エネルギー LR1のスコア= 0.0  建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.3  水資源 非再生材料の 汚染物質	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3  地球温暖化 地域環境 周辺環境	LR のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合		
これは、CASBEE静岡 2021年版 ver1.0による評価である。		その他
		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
※本建築物には事務所部分がないため、対象外である。	建築基準法の基準に対し、ブレース方向は28%増、ラーメン方向は37%増の強度を確保した。	既存緑地を保存の上、新設緑地も植栽し、外構の44%分の緑地を確保した。また、舗装面積率を30%に抑え、敷地内の空間音暑熱環境を緩和した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
※倉庫単用途かつ、人のための空調のみ存在するため、省エネ適判の適用除外の建築物となり、対象外。	手洗い水栓は自動水栓を、便器は節水型便器を採用し、節水に努めた。 また、断熱材は、ODP=0, GWP=3 に抑えた。	夏季の卓越風向について、見付面積比31.66%、隣等間隔指数2.62と、風を遮らない計画とした。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要									
建物名称	協賛組合浜松輸送センターD倉庫増築工事				BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★
2. 重点項目への取組み度									
重点項目	得点※/満点		取組み度				評価		
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.2	/5	    				ふつつ		
”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	3.4	/5	    				ふつつ		
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	2.9	/5	    				がんばろう		
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	3.0	/5	    				ふつつ		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上		ふつつ 3 点以上		がんばろう 3 点未満	
3. 重点項目についての環境配慮概要									
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。						内訳対応項目			
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)						得点		3.2	
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④内装クロスは耐用年数20年 ④給排水管に、期待耐用年数40年の材料を使用。					Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	② 外皮性能 ③ 昼光利用設備 ④ 昼光制御 ⑤ 躯体材料の耐用年数 ⑥ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑦ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑧ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑨ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑩ 主要設備機器の更新必要間隔		
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤既存緑地を保存の上、新設緑地も植栽し、外構の44%分の緑地を確保した。 ⑥舗装面積率を30%に抑え、敷地内の空間音暑熱環境を緩和した。					Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥	⑦ 生物環境の保全と創出 ⑧ 敷地内温熱環境の向上		
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) ※省エネ法適用除外建築物につき、評価対象外					LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩	⑪ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑫ 自然エネルギー利用 ⑬ 設備システムの高効率化 ⑭ モニタリング ⑮ 運用管理体制		
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪手洗いには自動水栓、便器は節水型便器を使用。 ⑫一部床タイル仕上にグリーン購入法による特定調達品目を使用。 ⑬一部木材は持続可能な常緑針葉樹を採用。					LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑫ 1.2.2 ⑫ 2 2.1 ⑬ 2.2 ⑬ 2.3 ⑬ 2.4 ⑬ 2.5 ⑬ 2.6 ⑬ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑯ 節水 ⑰ 雨水利用システム導入の有無 ⑱ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑲ 材料使用量の削減 ⑳ 既存建築躯体等の継続使用 ㉑ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ㉒ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ㉓ 持続可能な森林から産出された木材 ㉔ 部材の再利用可能性向上への取組み ㉕ 有害物質を含まない材料の使用 ㉖ 消火剤 ㉗ 断熱材 ㉘ 冷媒		
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮見付面積比31.66%、隣等間隔指数2.62と、風を遮らない計画とした。						LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	⑯ 地球温暖化への配慮 ⑰ 温熱環境悪化の改善		
”災害に強いしずおか”の形成(Disaster)						得点		3.4	
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯プレス方向:基準法+28% ラーメン方向:基準法+37%の強度を確保。 ⑰電気・通信設備の浸水の危険性がない。					Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑱ 耐震性 ⑲ 免震・制振性能 ⑳ 空調・換気設備 ㉑ 給排水・衛生設備 ㉒ 電気設備 ㉓ 機械・配管支持方法 ㉔ 通信・情報設備		
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)						得点		2.9	
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ㉑倉庫の階高は9.0m					Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	㉒ ユニバーサルデザイン計画 ㉓ 階高のゆとり ㉔ 空間の形状・自由さ ㉕ 地域性への配慮、快適性の向上		
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑屋外照明を設けることで防犯性に配慮。					Q-3 3 3.1 ㉑			
”緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)						得点		3.0	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤既存緑地を保存の上、新設緑地も植栽し、外構の44%分の緑地を確保した。 ⑥舗装面積率を30%に抑え、敷地内の空間音暑熱環境を緩和した。					Q-3 1 ⑤ 2 ⑥ 3 3.2 ⑥	⑦ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ・景観への配慮 ⑧ 敷地内温熱環境の向上		
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑫一部木材は持続可能な常緑針葉樹を採用。 ⑮見付面積比31.66%、隣等間隔指数2.62と、風を遮らない計画とした。					LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	⑬ 持続可能な森林から産出された木材 ⑭ 温熱環境悪化の改善		